

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：社会福祉法人櫻灯会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容
1 職務の理解 6 時間			通学	通信	合計	1 職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解	(1) 同左	3		3	(1) 講義及び演習：講義を行い、グループワークにて介護保険や保険外サービスの種類を討議・発表する。
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 同左	3		3	(2) 講義及び演習：視覚教材を視聴し、初めて知ったことなど印象に残った場面や感想を各自発表する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間			通学	通信	合計	2 介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 同左		6	6	(1) 通信講習のみ
	(2) 自立に向けた介護	(2) 同左	1.5	1.5	3	(2) 講義、演習、通信講習：事例を示し自立支援の視点から問題点と改善策をグループ討議し発表。
3 介護の基本 6 時間			通学	通信	合計	3 介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 同左	2		2	(1) 講義及び演習：講義を行い、グループワークにて介護職としての社会的責任について検討し発表。
	(2) 介護職の職業倫理	(2) 同左	1		1	(2) 講義及び演習：講義を行い、介護職の職業倫理の重要性についてグループ討議し発表する。
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3) 同左		2	2	(3) 通信講習のみ
	(4) 介護職の安全	(4) 同左		1	1	(4) 通信講習のみ

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間
(1) 介護保険制度		
(2) 障害福祉制度及びその他制度		
(3) 医療との連携とリハビリテーション		
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション		
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		
6 老化の理解		6 時間
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常		
(2) 高齢者と健康		
7 認知症の理解		6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		
(4) 家族への支援		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	1.5	2.5	4
(2) 同左		2	2
(3) 同左		3	3
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	3		3
(2) 同左		3	3
6 老化の理解		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	3		3
(2) 同左		3	3
7 認知症の理解		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	1		1
(2) 同左		3	3
(3) 同左	1		1
(4) 同左	1		1

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1)	講義・演習・通信講習：介護保険制度の仕組みや各サービス・要介護認定の手順を理解するためグループ討議を行ない発表する。
(2)	通信講習のみ
(3)	通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1)	講義及び演習：失語、聴覚、視覚障害者に応じた対応方法を理解する為、グループワークにて体験する。
(2)	通信講習のみ
6 老化の理解	
(1)	講義及び演習：講義を行い、老化によっておこる生活への影響についてグループ討議を行い発表する。
(2)	通信講習のみ
7 認知症の理解	
(1)	講義及び演習：認知症ケアの方法や認知症の方への関わり方を理解するためグループ討議を行ない発表する。
(2)	通信講習のみ
(3)	講義のみ
(4)	講義のみ

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 こととからだのしくみと生活支援技術		75 時間
ア 基本知識の学習		10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50～55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(10) 排泄に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		1		1
(2) 同左		1		1
(3) 同左		1		1
9 こととからだのしくみと生活支援技術		75 時間		
ア 基本知識の学習		12 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		3	3	6
(2) 同左		3		3
(3) 同左			3	3
イ 生活支援技術の講義・演習		51 時間		
		通学	通信	合計
(4) 同左		6		6
(5) 同左			6	6
(6) 同左		6		6
(7) 同左		6		6
(8) 同左		6		6
(9) 同左		6		6
(10) 同左		6		6

8 障害の理解		
(1) 講義及び演習:講義を行い、グループワークにて障害者の抱える生活障害について討議し発表。		
(2) 講義のみ		
(3) 講義のみ		
9 こととからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 講義及び通信講習		
(2) 講義のみ		
(3) 通信講習のみ		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループワークにて家事支援のやり方について討議し発表。		
(5) 通信講習のみ		
(6) 講義及び演習:講義を行い、着脱介助の実技演習を行う。		
(7) 講義及び演習:講義を行い、ベッドから車椅子への移乗、施設内・外への移動介助の実技演習を行う。		
(8) 講義及び演習:講義を行い、食事介助の実技演習を行う。		
(9) 講義及び演習:講義を行い、全身清拭や部分浴の実技演習を行う。		
(10) 講義及び演習:講義を行い、排泄介助の実技演習を行う。		

(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	6		6	(11) 講義及び演習:講義を行い、ベッドメイキングや体位変換の実技演習を行う。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	3		3	(12) 講義のみ
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	(実習) [※]	0 時間			(実習) [※]
介護実習 ○時間					
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間					
在宅サービス提供現場見学 ○時間					
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習	12 時間			ウ 生活支援技術演習
		通学	通信	合計	
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	6		6	(13) 講義及び演習:個人ワークにて個別援助計画の作成をし発表。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	6		6	(14) 講義及び演習:講義を行い、本項目(6)～(11)についての再確認を含め、実技試験を行う。
10 振り返り 4 時間	10 振り返り	4 時間			10 振り返り
		通学	通信	合計	
(1) 振り返り	(1) 同左	2		2	(1) 講義及び演習:研修全体を振り返り、研修を通じて学んだことをグループ討議し発表する。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	2		2	(2) 講義のみ
追加カリキュラム 時間					
計 (130 時間)	計 (130 時間)				

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。